



ユネスコエコパーク通信



昨年(2019年)の7月下旬以降、綾の照葉樹林で、シイ、カシなどのブナ科の広葉樹が枯れる「ナラ枯れ」と呼ばれる被害が目立つようになってきました。

ナラ枯れは、体長約5ミリのカシノナガキクイムシが幹に穴を開けて侵入した際に持ち込むカビの一種の影響により、その木が枯れてしまう現象です。樹木が集団的に枯れてしまうこともあり、生態系はもちろん、景観にも大きな影響を与えることが懸念されます。近年は、全国的に被害が増えている状況です。

対策には、薬剤の塗布による予防や伐倒してくん蒸や焼却を行う駆除があります。綾町では予防策として今年の春に、樹齢200年を超えるカシの巨木など約50本に試験的に薬剤を注入しました。

ナラ枯れの被害状況を 継続モニタリングします



今年もナラ枯れが発生しやすい時期になりましたが、薬剤を注入した木について経過観察を行っていくとともに、綾町内の今年のナラ枯れの被害状況についてもモニタリングを継続していく予定です。



暑い夏が始まります。彼らの美しい歌声にじっと耳を澄ませてみるのもよいかもしれません。

漢字で書くと「河鹿蛙」。鹿のように「フイフイフイ」と、カエルとは思えないほど高く美しい声で鳴きます。万葉集にも詠まれるなど古くから日本人に親しまれてきたカエルですが、体が灰褐色をしているため、川の石や岩と見分けがつかず、姿を見つけることは簡単ではありません。

コラム

カジカガエル

初夏から秋にかけて、森の中を流れる溪流でさわやかできれいな声が聞こえてきたら、それはカジカガエルかもしれません。